



(3) 直方市産業振興と相談スタイルについて

直方市は、事業所のほとんどを中小企業が占めており、中小企業が経済の基盤をなしています。よって、中小企業の振興により雇用が創出され、市のにぎわいに繋がると考えており、中小企業の振興は、単に企業にとどまるものではなく、市民生活全体に関わる課題といえます。本市は、「直方市産業振興アクションプラン」を作成し、施策のひとつとして静岡県富士市にあります f-Biz をモデルとしたフェイス・トゥ・フェイスで事業者の相談にのることができる相談窓口を設置することで、地元事業者の更なる発展を目指すこととなりました。そこで、直方市の産業振興のあり方を踏まえて、f-Biz をしっかりと調べ、あなたが所長となった後、目指すべき相談の方針や目標について、記載してください。※回答欄の行数は適宜増やしてください。(400～800 文字程度)

(回答欄)

(4) 事例対応課題①

株式会社 A は、創業 30 年の金属加工メーカーで、主に金型や一般機械部品を製作しており、創業社長が束ねる社員 8 名の中小企業です。

取引先の 9 割は県外で、大手メーカーとの取引もあるのですが、社長は末永い企業の存続には新たな製品開発が必要不可欠と考え、医工連携で内視鏡手術の短時間化を実現させる製品が出来上がりました。

しかしながら、これまで営業を行ったことがなく、どのように販売したらいいかわかりません。

あなたがこのような相談を受けたら、どのようなご提案をされますか。

(※回答欄の行数は適宜増やしてください。(400～800 文字程度))

(回答欄)

(5) 事例対応課題②

事業者 B は、駅前中心市街地商店街で食料品店（生鮮品を除く）を家族で営んでおり、また商店街の役員を務めています。店の売上は 8 割が店頭販売で、残りは得意先からの注文に伴う配送販売です。

現在、商店街は閉店した店舗が多く、シャッター街になっています。加えて、唯一駅前にありました大型スーパーがこの夏閉店することになり、ますます中心市街地への集客は減少していくと予測されます。ただし、商店街の近くにはこの 10 年位の間にはファミリー層から高齢者までが幅広く居住するマンションが複数建設されており、事業者 B はここに住んでいる人々に商店街で買い物してもらい、売上を延ばすことができないか考えています。

どのように集客を図り、売上を拡大すればよいと考えますか。戦略を提案してください。（※回答欄の行数は適宜増やしてください。400～800 文字程度）

(回答欄)